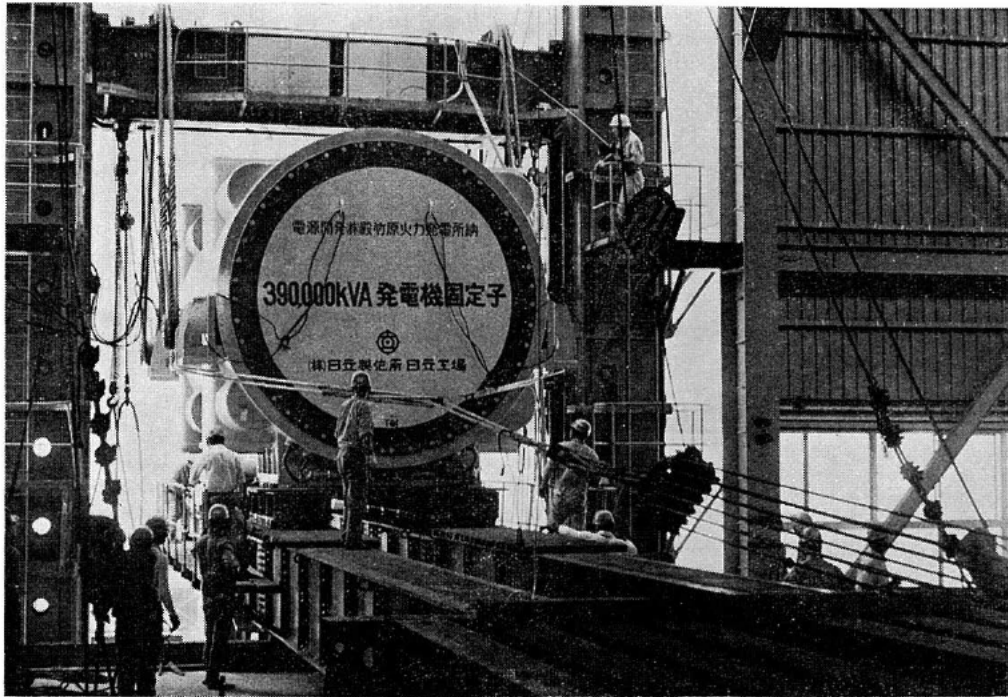


「竹原」8月31日ステーター揚る ジャッキアップ方式が採用



地上15メートルまで吊揚げられたステーターは、コロを利用してロータリーベース上に移動される

〔竹原＝8月31日〕広島県竹原市忠ノ海町に進められている電源開発株式会社竹原火力発電所第2期（出力39万kw）建設工事は、タービン本体の本格的な据付もはじまり、さる8月31日ステーター吊揚げを行なった。

当社として初めての電発火力発電所の建設となった同工事は、日立プラント建設株式会社から受注したボイラとタービン本体、発電機の据付で、今年1月15日建設所を開設して

工事に取組んでいる。

8月31日吊揚げが行われたステーターは自重250トンにもものほり、この吊揚げのために、当社としては初めての試みのジャッキアップ方式が採用され、約5時間の作業ののち、

ステーターは無事タービン室に収まった。

現在、タービン関係では外部ケーシングのワイヤリング作業と主塞止弁の取付けを行なっている。

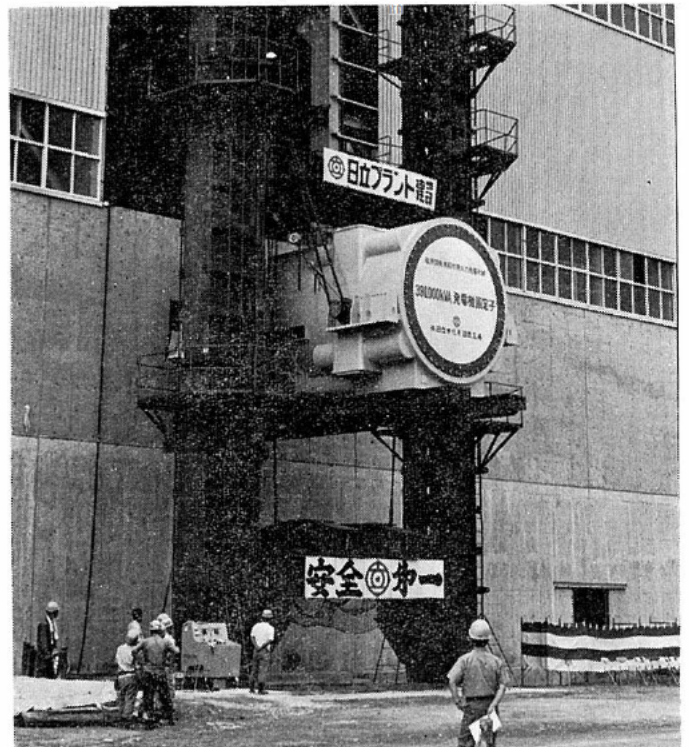
一致団結で省力化はかる

このステーター吊揚げ準備には、8月17日の門型揚重機のベース設定から着手し、8月27日にその据付を

終えて、ポールアップ前日8月30日には、ステーターを地上3メートルで固定した。

8月31日ポールアップ当日、御社の神事のあと、当社では初めての工法であるジャッキアップ方式で、9時30分から約2時間、ステーターを地上約15メートルまで吊揚げた。つづいて、タービン室3階の発電機台座に据付けられているロータリーベース上に搬入するため、横引きにコロを利用して、午後2時30分無事に収

まり、すべての作業を完了した。これらの作業は、川部所長代理、坂口主任以下当社従業員9名、そして協力業者2名のこれまでにない少人数で、しかも専門業種外の作業員もいたが、仕事に取り組む積極性と一致団結による相互協力で、重機材を適所に駆使して大巾な省力化がはかられた。



関係者の見守るなかで、吊揚げられるステーター